

第7 回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

■日時：平成27年10月22日（木）午後1時00分～午後3時00分

■場所：吉野町中央公民館2階 第3・4研修室

■出席者：第7回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 出席者名簿のとおり

1. 開会

2. 会長挨拶

■会長挨拶：

- ・皆さんこんにちは。今日もお忙しい中ありがとうございます。推進会議は今回で7回目となりますが本日最終日となります。よろしくお祈いします。なお、本日はこの後、吉野高校の皆さんによる発表があるとのことで楽しみにしています。よろしくお祈いします。

3. 吉野高校森林科学科プロジェクトの発表

◎吉野高校教員：

- ・本日は3年生2名の生徒と伺った。本来は4名で活動している。2年前に吉野調査隊をこの4名で結成した。吉野町の魅力を外に向けて発信することを目的として活動している。PRとして動画を撮ってYOUTUBEで配信を行うなどの活動も行っている。今年においては、農業クラブの大会で近畿大会までいくことが出来た。その際に発表した内容を本日発表させていただきたいと思う。

～吉野高校生徒による吉野高校森林科学科プロジェクトの発表～

◎会長：

- ・発表ありがとうございました。それでは案件の審議に入っていきます。

(1) 前回の議事録の確認

◎会長：

- ・前回、前々回の議事録の確認につき、修正点があれば、ご意見をいただきたい。問題無ければ、本議事録をもって、公開対象としてよろしいか。
→全委員異議なく、承認。

(2) 吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

◎事務局より【資料2】をもとに説明及び訂正箇所等意見の確認。

◎委員：

- ・基本目標1の②基幹産業の強化による地域経済の活性化の指標「外国人宿泊者数」について数値の見直しを行って欲しい。目標値については5,000人程度の設定に出来ないか。

◎会長：

- ・どこの国の方が宿泊者数として多いか。

◎委員：

- ・最近は主に中国人の方が多いが、欧米の方も多く来ていただいている。

◎会長：

- ・指標「外国人宿泊者数」については、基本目標の「観光客宿泊者数」の内容も加味しながら変更の検討を行います。

◎委員：

- ・基本目標4 の④交流人口の拡大の指標「各種イベント誘致による来訪者数」の算出方法は何か。

◎事務局：

- ・今年度については、弓道の全国大会も開催されたところであるが、今後も交流人口の拡大を目指して、吉野を認知してもらうために近畿大会程度のイベント誘致を実施するとの考えのもと指標を設定している。

◎会長：

- ・それでは全体を通して、順に気になった点があれば報告していただきたい。また、ワーキンググループでの報告事項があればお願いします。

◎委員：

- ・木の子文庫の団体としての表記について、文中ではまちづくり団体に含まれると思われるが、自分達はまちづくりのために活動しているわけではないので、地域活動団体等の表記に変更して欲しい。

◎委員：

- ・吉野高校空き校舎への国・県の機関移転につき、9月より、県の教育委員会と今後の吉野高校のあり方について、審議をさせていただいた。吉野町とも審議を進めているところである。
吉野高校は県立高校の中では非常に大きな校舎をもっているが、生徒の数は非常に少なくなっている。そこで、空き校舎の活用に関する改革を行う所存である。
森林センターや吉野土木事務所といった、県の出先機関を集約していく考えである。
- ・また、全国の人を対象に吉野の歴史を活かせるような学科の創設を考えている。吉野の産業を支える人材を育成できるような学科を作っていきたいと考えている。
- ・「愛着を持つ」に関して平仮名の「もつ」に変更した方が良いのではないかと。

◎会長：

- ・森林センターが吉野高校に入った際に連携して出来ることとしてはどういったことがあるか。

◎委員：

- ・バイオマス発電等がある。エネルギーのまちとして、こういったことに取り組んでいく必要があると考えている。

◎委員：

- ・2年前に観光協会から吉野ビクターズビューローという名称に変更された。理由としては、観光客だけではなく、地域の産業を見学しに訪れる方等、観光以外にも吉野町に来ていただく方を視野に入れたということが挙げられる。
- ・木育という観点からは、貯木等で空いているスペースを活用して、みんなが集まり、木の魅力を感じてもらえるような施設を作ってはどうか。また、その施設の近くに定住促進住宅を建てる等を検討してはどうか。観光客が吉野に来て興味を持ってくれるような施設を考えることが大切であると思う。

◎委員：

- ・吉野高校を核とし、職人専科コースを設けるといった取り組みは良いと思う。現場に入って経験出来るのは良いことだと感じる。
- ・もし、職人専科コースを設けて日本全国から人を呼んだ場合、その方達が就職する際に住む場所がないのではないかと思う。空き家バンク等を活用していくことを検討してはどうか。
- ・木を使った施設等を今後増やしていき、まずは木のまちであるというイメージづくりを行ってから吉野材の認知度を高めていくという流れが良いのではないか。まずは木に親しみをもってもらうことが大切であると思う。

◎委員：

- ・前回の会議で、総合戦略策定に関わった推進会議委員の団体名を明記するべきではないかとの意見を述べさせてもらったが、それは今回の総合戦略（案）の中で反映されている。

◎委員：

- ・地域の銀行として、地方創生に携わって行く中で、総合戦略の中に固有名詞を入れていただけることに関してはありがたいという思いがある。
- ・先程の吉野高校の生徒達の発表を見て、地域のことを自分達で考え、取り組む姿に感銘を受けた。

◎オブザーバー：

- ・交流人口の拡大と定住促進に関して、まずは多くの方に認知してもらい地域に足を運んでもらう必要がある。その後、2 地域居住等を検討してもらい、最終的に定住に移ってもらうといった流れを掲げて県は取り組んでいるが、吉野町も同様の考えのもと総合戦略での定住促進を考えていると感じた。今後県でも総合戦略の策定を順次進めていきたい。

◎委員：

- ・スポーツとまちづくりを一緒に取り組んでいくことを主眼においてスポーツ振興に取り組んでいる。
- ・スポーツ振興と地方創生を考えた時に、まずは健康寿命を延ばすことが大切であると考えて取り組んでいる。
- ・地域で行うイベントを増やしていくことが出来れば、ボランティアの参加人数も増えて、まちづくりに繋がっていくのではないかと考えている。
- ・吉野運動公園利用者数に関して数値が正しいかの確認をしてもらいたい。

◎委員：

- ・国栖の里に関しては、南部東部振興課の補助事業も有り、国栖の今後を考える取り組みがスタートした。
- ・国栖小学校跡地を今後どうするかを念頭において取り組みを進めている。
- ・国栖に観光協会を立ち上げた当初は観光資源についての理解がなかったが、箸や和紙を念頭に置いてこの10年間取り組んできた。
- ・国栖の里観光協会はすべてボランティアで構成されているが、今後は商いとしてやっていけるような取り組みが大切である。今回を機に観光協会の体制を考えていく。
- ・箸産業に関しては、マイ箸等に関する取り組みを行っている。通常の作業を行いながら日々様々な取り組みを行っているが、それにより各事業者の負担が増えているといったことも起こっている。
- ・箸のことにに関して相談するのは文化観光交流課であるが、木材のことになればまちづくり振興にいくことになっている。地域産業に関しての課があれば分かりやすくなるのではないか。

◎会長：

- ・先日、町長と共に各省庁に伺った。
- ・総合戦略の内容を実現していくために、実践型地域創造事業について話を進めていけるようにしたい。
- ・企業が欲しい人材を探せるように、ハローワーク、県とも連携して取り組んでいけるような体制づくりを考えている。
- ・経済産業省の通商担当の審議官と会った際には、製材、林業の方が対海外戦略を考える時に、国を通じて情報共有を図ることは出来ないかといった話を行った。
- ・中小企業庁では、商店街のマーケティング調査とハード整備についての話を行った。
- ・農林水産省では、林業についてヘリコプター利用に関する話を行った。
- ・総務大臣とは、テレワークに関して、自宅等に居ながら仕事ができる環境づくりが出来ないかといった話を行った。
- ・他にお気づきの点や意見等があればお願いします。

◎委員：

- ・地域のコミュニティの場が必要であると感じている。自らは本を通じて、コミュニティの場を作ることと考えて取り組んでいる。

◎委員：

- ・地域での仕事をどんどん作っていく必要があると感じる。情報交換を通じて、結果が出るようになっていきたいと感じる。人の暮らしを支える吉野の木を実感してもらうため、ひとつひとつ着実に実行していきたい。

◎会長：

- ・木育施設に関しては、沖縄のやんばるが取り組みを行っている。年間2万人の集客があるとのこと。
- ・私に関わった総合戦略策定においては、主体を明確にしていくことを重視している。
- ・数値に関しては、今後確認を取りながら、改めて見直しを行なう。また、文言等についても会長一任という形で修正してよろしいか。
⇒全員異議なく、承認。

(3) その他

◎事務局：

- ・吉野町人口ビジョン（案）について資料3をもとに説明。

◎事務局：

- ・ワーキンググループの今後の活動についての説明。

◎会長：

- ・役場の予算作成の時期になっているので、ワーキンググループの活動で予算上検討のものがあれば、事務局までご意見いただきたい。
- ・奈良県の総合戦略はいつぐらいに完成するのかの情報共有をお願いしたい。

◎オブザーバー：

- ・ 県では、5 つの部会をベースに委員会等を構成し、これを活用して総合戦略を作成している。
- ・ 9 月に奈良県の地方創生有識者会議を行い、奈良県総合戦略（骨子）の精査を行った。その後パブリックコメントを行った。現在は有識者、パブリックコメントの意見を反映させる形で12月の策定を目指している。

～奈良県総合戦略（骨子）をもとに概要説明～

◎会長：

- ・ ではこれで第7回の総合戦略創生推進会議を終了します。皆さんありがとうございました。